

# イネ

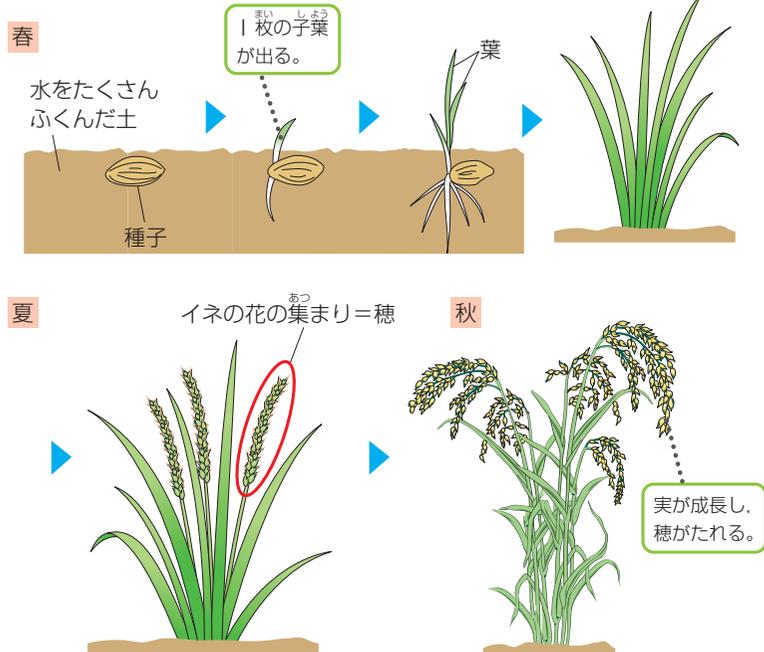


イネは、(1)の部分<sup>ぶぶん</sup>が米として食用とされています。(2)ごろになると、田んぼではなえ<sup>なえ</sup>を植えている(田植<sup>たうけい</sup>をしている)光景<sup>こうけい</sup>を目にします。(3)ごろには成長<sup>せいちょう</sup>した実<sup>み</sup>の重み<sup>おも</sup>で(4)がたれてきて、収<sup>しゅう</sup>かくされます(稲<sup>いね</sup>かり)。



## 成長のようす

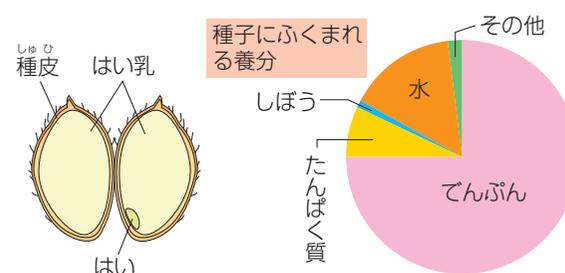
イネは(5)です。(6)ごろ種子<sup>たね</sup>が発芽<sup>はつが</sup>し、成長<sup>せいちょう</sup>します。(7)ごろに花<sup>はな</sup>がさき、(8)には実<sup>み</sup>が成長<sup>せいちょう</sup>し、やがてかれます。



イネの種子は、水の中にとけたわずかな空気<sup>くわい</sup>を使って発芽<sup>はつが</sup>するんじゃ。発芽<sup>はつが</sup>に空気<sup>くわい</sup>が必要<sup>ひつよう</sup>ないわけではないので、注意<sup>ちゅうい</sup>するのじゃぞ。

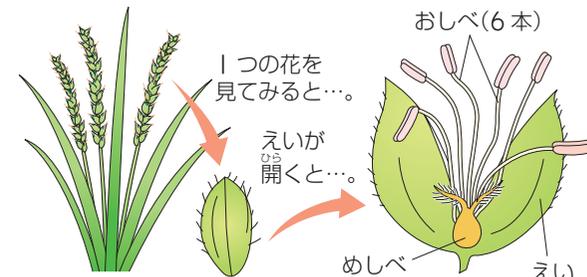
## 種子のつくり

イネの種子には(9)があり、発芽<sup>はつが</sup>のための養分<sup>ようぶん</sup>として(10)がたくわえられています。



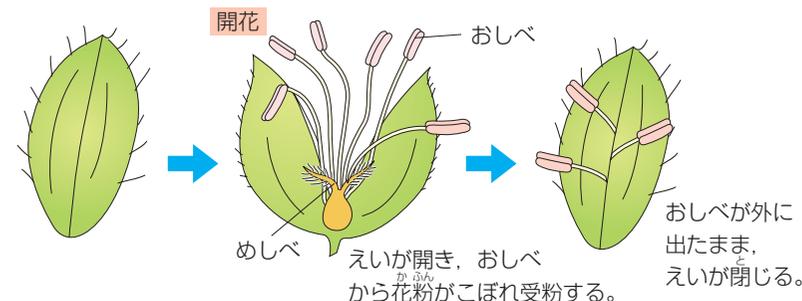
## 花のつくり

イネの花は、花びらやがくをもたない(11)です。花びらやがくのかわりに「えい」があります。イネの花はくきの先にたくさん集まって(12)をつくっています。



## 受粉の仕方

イネは、開<sup>かい</sup>花<sup>か</sup>した直後に(13)を行います。また、開<sup>かい</sup>花<sup>か</sup>後に(14)を行う(15)でもあります。イネの開<sup>かい</sup>花<sup>か</sup>時間はとても短<sup>みじか</sup>いです。



(注意) 本ドリルでは入試問題を掲載していません。

# トウモロコシ



トウモロコシは、(16)の部分が野菜として食用とされています。種子の部分をひいて粉にし、食用とすることもあります。

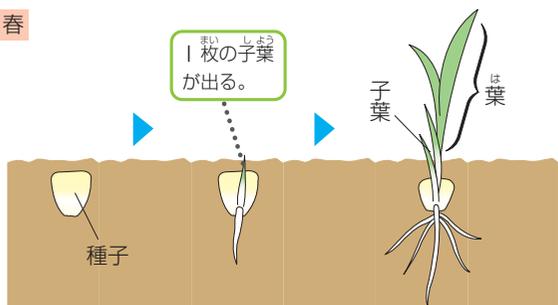


トウモロコシは春に種子をまくと夏には収穫されます。

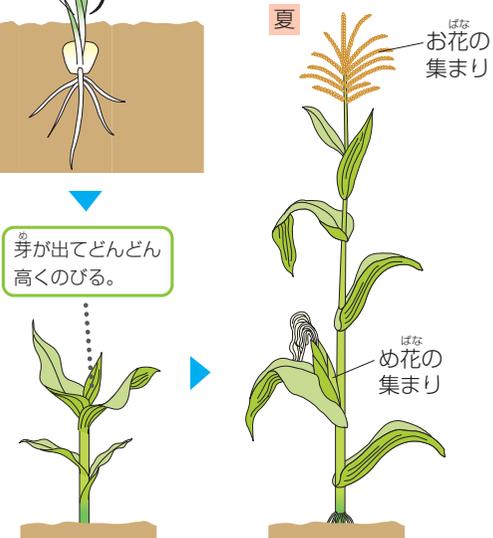
## 成長のようす

トウモロコシは(17)です。(18)ごろ種子が発芽し、成長します。(19)ごろに花がさいて実が成長し、やがてかれます。

春



夏

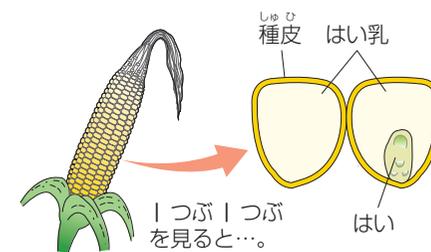


### +プラスワン

トウモロコシなどは乳のある植物は、発芽のときは乳は土の外に出ません。成長するにしたがって、土の中のは乳の部分小さくなっていきます。

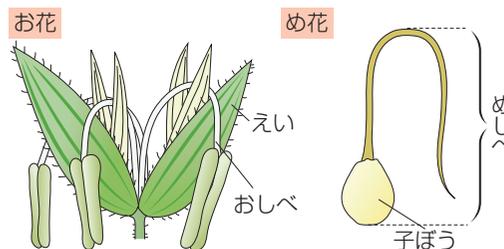
## 種子のつくり

トウモロコシの種子には(20)があり、発芽のための養分として(21)がたくわえられています。



## 花のつくり

トウモロコシは、(22)と(23)の2種類の花をさかせます。お花は(24)に集まっています。めしべがないこと以外は、イネの花とよく似たつくりをしています。め花は(25)で集まっています。

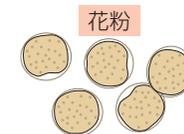


### +プラスワン

トウモロコシのめ花の集まりは、葉に包まれています。葉の外に出ている長い毛のようなものは、1つ1つのめ花からのびためしべです。

## 受粉の仕方

トウモロコシの花は、風によって花粉が運ばれる(26)です。



### +プラスワン

トウモロコシは、風によって運ばれた花粉がめしべにつきやすいように、お花が高い位置に、め花が低い位置にあります。

(注意) 本ドリルでは入試問題を掲載しておりません。